

授業科目	事例研究（家族・児童福祉） Case Study (Welfare for Family and Child)			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1・2 年/ 前期	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>本科目のねらいは、生活支援を通して子どもの人権を護る、児童ソーシャルワークに必要な価値・知識・技術を修得することにある。自己及びウェルビーイング実現に向けての支援及び社会デザイン力の向上を図るために、子どもの参加する権利を価値基盤に据えた、子どもと家族・地域の協働による実践アプローチの原則を学ぶ。</p> <p>上記のねらいに即して、具体的には、次の2点により授業を進める。第一に、児童ソーシャルワークの原則とプロセスを学んだ上で、ミクロ及びメゾレベルの実践事例を文献から読み取り、価値・知識・技術の関連性を理解する。第二に、受講生が実習・実践・ボランティア活動等で出会った事例をもとにアセスメントを行い、その成果を発表する。</p>							
観点	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
関心・意欲・態度	児童ソーシャルワークの価値を応用することができる。 継続的な学修により、高度な専門力を目指す意欲と姿勢を維持することができる。				ディスカッション 授業態度・参加度	10% 20%	
思考・判断	児童ソーシャルワークの価値・知識・技術の関連を、実践の文脈から把握することができる。				レポート	10%	
技能・表現	子どもの参加する権利を尊重した協働実践アプローチの原則を応用することができる。				レポート 質疑応答	10% 10%	
知識・理解	児童ソーシャルワークの価値・知識・技術を修得することができる。 児童ソーシャルワークに関する理論を事例に応用することができる。				ディスカッション 事例報告	10% 30%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業態度・参加度」(20%)は文献講読等の宿題への取り組みと主体的な授業参加、「事例報告」(30%)は事例資料作成及び発表、「質疑応答」(10%)は事例報告の際の質問に対する応答内容、「ディスカッション」(20%)は授業内の発言内容と貢献度、「レポート」(20%)は子どもの参加と協働に関する実践アプローチを応用した事例研究に関する最終レポートを評価対象とする。</p>							
授業の概要							
<p>本科目は、文献講読を踏まえたディスカッション及び、各受講生からの事例報告による参加型の授業である。前者は、担当教員が関連する参考文献や視聴覚資料等を提示し、受講生全員によるディスカッションを通して、児童ソーシャルワークに関する理論学習や事例検討を行うものである。後者では、アセスメントプロセスに則った具体的手法を学び、それに即して受講生が実習・実践・ボランティア活動等で出会った事例をもとに情報分析を行う。報告担当の受講生がアセスメント資料を作成した上で発表し、受講生全員によるディスカッションを行う。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業中に適宜、文献資料を配布する。 参考書：ジョナサン・パーカー他著／岩崎浩三他訳(2008)『進化するソーシャルワーク—事例で学ぶアセスメント・プランニング・介入・再検討』筒井書房。 中野敏子他(2009)『こうしてみようあなたの支援—ふりかえる・しっかり考える・進む』大揚社。 その他、授業中に適宜提示する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>学修効果を最大限にするために、授業中に指定された文献は、毎回必ず読み、分からない専門用語は調べた上で参加すること。また、レジュメやレポート等の成果物は、提出期限等の指示に従って適切に提出すること。</p> <p>児童ソーシャルワークをテーマとして取り上げるため、生活者としての子どもの視点を大切にして授業に臨んでほしい。児童虐待防止や社会的養護等、子どもの権利と生活支援に関心を持ち、日頃から関連情報に積極的に触れることや、様々な事例に出会う実践の機会を持つことを期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	受講生同士の関心事項を共有し、文献の選定及び授業の進め方について協議・決定する。	予習：本科目で学びたいことを整理する。 復習：シラバスを熟読する。
2	児童ソーシャルワークの原則とプロセス	子どもの参加と協働など、児童ソーシャルワークの原則について学ぶ。さらに、児童ソーシャルワークのプロセスについて解説する。	予習：指定文献を講読する。 復習：児童ソーシャルワークの原則とプロセスを整理する。
3	アセスメント	児童ソーシャルワークのアセスメントの原則及びプロセスについて理解する。	予習：指定文献を講読する。 復習：アセスメントの原則とプロセスを整理する。
4	支援計画・介入・評価	児童ソーシャルワークの支援計画・介入・評価各段階における原則や具体的方法について学ぶ。	予習：指定文献を講読する。 復習：支援計画・介入・評価について学んだことを整理する。
5	児童ソーシャルワークの事例①－教育と福祉	不登校の子どもと家族への支援事例を通して、児童ソーシャルワークの原則や方法を具体的に検討する。	予習：指定文献を講読する。 復習：事例から学んだことを整理する。
6	児童ソーシャルワークの事例②－社会的養護	社会的養護のもとで育つ子どもと家族への支援事例を通して、児童ソーシャルワークの原則や方法を具体的に検討する。	予習：指定文献を講読する。 復習：事例から学んだことを整理する。
7	児童ソーシャルワークの事例③－人材育成	児童ソーシャルワーク人材育成に関する事例を通して、その専門性や人材育成の在り方について具体的に検討する。	予習：指定文献を講読する。 復習：事例から学んだことを整理する。
8	事例の選定	受講生の実習・実践・ボランティア活動等の経験を踏まえ、検討対象となる児童ソーシャルワークに関する事例を選定する。	予習：どのような事例を検討したいかを考え、情報をまとめる。 復習：事例のタイトルを考える。
9	基本情報の整理	選定した事例に基づき、基本情報の整理の仕方を学び、事例に応用する。	予習：実践記録を準備する。 復習：基本情報を完成させる。
10	アセスメントツールの活用①－基礎	ジェノグラム・エコマップ・ライフヒストリー等の古典的なアセスメントツールの特徴を踏まえた上で、事例に応用する。	予習：基礎的なアセスメントツールについて復習する。 復習：事例をもとに、基礎的なアセスメントツールを使って情報分析する。
11	アセスメントツールの活用②－発展	ライフマップ・ハウスマップ・子どものエコマップ・ニーズマトリックス等の近年開発されたアセスメントツールの特徴や使い方を学び、事例に応用する。	予習：発展的なアセスメントツールについて調べる。 復習：事例をもとに、発展的なアセスメントツールを使って情報分析する。
12	アセスメントの文章化	基本情報及びアセスメントツールによる情報分析の結果を踏まえてアセスメントを文章化する方法を学び、事例に応用する。	予習：文献を調べ、アセスメントの例文を複数入手する。 復習：アセスメント文を完成させる。
13	事例報告①	担当の受講生が事例報告を行い、受講生全員でディスカッションし、児童ソーシャルワークの原則や方法に対する理解を深める。	予習：報告レジュメを作成し、論点を整理する。 復習：質疑応答やディスカッションの内容を踏まえ、レジュメを修正する。
14	事例報告②	担当の受講生が事例報告を行い、受講生全員でディスカッションし、児童ソーシャルワークの原則や方法に対する理解を深める。	予習：報告レジュメを作成し、論点を整理する。 復習：質疑応答やディスカッションの内容を踏まえ、レジュメを修正する。
15	レポート	子どもの参加と協働に関する実践アプローチを応用した事例研究の成果を発表し、受講生全員でディスカッションする。	予習：事例報告の結果を踏まえ、レポートを作成する。 復習：ディスカッションの結果を踏まえ、レポートを完成させる。